



あいち青少年赤十字

せい しょう ねん せき じゅう じ

No.143
令和7年2月発行

日本赤十字社愛知県支部
〒461-9561 名古屋市東区白壁一丁目60番地
TEL(052) 971-1599 FAX(052) 971-1590
ホームページアドレス https://www.jrc.or.jp/chapter/aichi/

人間を救うのは、人間だ。 Our world. Your move.



一緒に考えよう ~今わたしたちができることを~

活気のある学校にするために 安城市立作野小学校 6年 金本 結愛

作野小学校児童会は、「学校ルールクイズラリー」に取り組みました。全校児童がルールやマナーを守って学校生活を送れるようにするために、児童会でクイズの内容や当日の動きを企画し、実行しました。学校全体を活動場所として使ったこの企画には、1年生から6年生までの全学年の児童が参加し、とても活気あふれるものになりました。これからも全児童が楽しく生活ができるような企画を児童会で行っていきたいと思います。



広がる笑顔

鳴子台中学校生徒会では異学年交流とあいさつを増やすため、「オレ、あいモンとふれあうモン」という活動を行いました。朝、登校してきた時にあいさつやじゃんけんをするというシンプルな活動でしたが、あいモンと一緒に取り組んだことで笑顔も増え、仲が深まったように感じました。もちろん、人と話すことが得意な人も、苦手な人もいるので、相手のことを考えて活動するということも考えることができました。このような活動を学校外にも広めたいです。



名古屋市立鳴子台中学校 3年 平田 爽

八幡中学校では校訓の一つである「誠意」と生徒会目標の一つである「礼儀」に基づいて、あいさつ運動を行っています。朝、執行部が昇降口で登校してくる生徒に明るいあいさつをします。あいさつ運動では、「あいさつ」運動と書いたカードを持ち、生徒同士が親しみやすい環境をつくっています。あいさつは元気を与える事が出来る小さなコミュニケーションです。これからも「元気」を与えられるあいさつをしていきたいと思います。



普通の生活のありがたみ

豊田市立猿投台中学校 3年 那須 大資

満足した生活が送れない人や、身体に不自由のある人の手助けをするため、募金活動を行いました。僕は、募金活動をする中で、あたりまえに感じていたご飯を食べられること、お風呂に入ることなどのありがたみを感じました。貧困な国では、ご飯が1日1食しか食べられないことがあります。お風呂に何日も入れなかつたりしています。僕は、このような人達のことを多くの人が知り、誰もが幸せな生活を送れるように手助けをしたいと強く感じました。



募金で集まる「思いやり」

日進市立梨の木小学校 6年 森 謙太

ネパールやバヌアツの人々の暮らしを支えるために1円玉募金を行いました。ぼくたちの学校では、たくさんのお金が集まり、世界の子どもたちの笑顔を増やしたいという気持ちが伝わってきました。この活動を通して、困っている人々を支えるためには、世界の貧困に対して一人一人の意識を高めることが大切だと実感しました。これからも、自分にできることを考え、小さな「思いやり」を積み重ねていきたいです。



(JRC 1円玉募金活動)

身近なもので!

愛知県立瀬戸北総合高等学校 3年 福村 梨湖

私たち月に1、2回ほど、各教室を回ってペットボトルキャップの回収を行っています。回収後は洗浄し、回収業者さんに引き渡し、のちにワフチンにかわります。この活動を始めて、私たちの身近なもので誰かの命を救えることを知り、驚きました。一人一人の小さな心がけの積み重ねで一人でも多くの命を救うことに繋がります。キャップはゴミ箱ではなく回収箱へ、みなさんもぜひ、少しの意識で人助けをしましょう。



支部通信

気づき・考え・実行する
青少年赤十字



(福良港津波防災ステーションにて)

【今回の取材先】
①石巻日経新聞社、女川町観光協会（宮城県石巻市・女川町）
②エレコム株式会社（大阪府大阪市）
③人と防災未来センター（兵庫県神戸市）
④淡路手延素麺協同組合・（有）金山製麺（兵庫県南あわじ市）
⑤市役所・福良町づくり推進協議会（兵庫県南あわじ市）

震災の教訓を語り継ぐ「子ども新聞プロジェクト」

愛知県支部の代表的取り組みの一つとして、「子ども新聞プロジェクト」があります。このプロジェクトは、東日本大震災から得た教訓をもとに、子どもたちが被災地などを取材し、「子ども新聞」としてまとめ、風化させてはならない震災の教訓や備え、対応などを未来に伝える活動です。毎年、愛知県と岐阜県の青少年赤十字加盟小学校の中から参加者を募り、取材先を決め、現地へ向したり、オンライン取材をしたりします。取材後、子ども記者たちは、取材を通して感じたことや考えたことを踏まえて皆で協力して記事にします。この取り組みによって、読者である子どもたちに災害について考える機会を提供できるのではないかと考えます。そして、取材に参加した子ども記者たちは、それまで以上に「気づき・考え・実行する」意識を高めます。

今回は、11回目を迎えた阪神淡路大震災や東日本大震災などの被災地域での防災や災害時に対する取り組みについて取材しました。その取材時の様子を写真を交えて紹介します。



【取材後の子ども記者の声】(一部抜粋)
◎私も地域の人のために何ができるか、取材を通じて学んだことをこれからも大切にしていきたい。
◎さまざまな会社が被災地支援の活動に取り組んでいることをもっと学びたいと思った。
◎普段から何が不便かを考えてくれる人がいるからこそ、災害が起った時に安心した生活が送れるのだと思った。
◎普段の生活でもあらかじめ災害の知識をもち、対策することが大切だと思った。
◎周りのみんなと協力して防災活動に取り組み、災害時も助け合って生きていきたいと心から思った。